

# 大磯で広がる、「和」のこころ

## ～スポーツを通じてともに向き合いともに歩む～

### 柔道



大磯町には、障がいのあるなしにかかわらず、一緒に柔道ができる道場があります。濱名道場に通う小林陸さんと高部勇翔さんが、2022年オーストラリアで開催された知的障がい者スポーツ国際大会（柔道）で初優勝と準優勝を飾りました。



高部さん

小林さんは9歳、高部さんは16歳から柔道を始めました。はじめの頃はでんぐり返しができませんでしたが、今では後ろ回りもでき側転にも挑戦し、自分より体格の大きい相手を投げ飛ばしたかと思えば、年下や初心者相手には加減もできます。帯の結び方を教えたり道着の乱れを直してあげる場面も見られました。

素人目から見ると練習はなかなかハードな印象でしたが、二人とも柔道を辞めたいと言ったことは一度もないといいます。柔道の上達とともに、あいさつやコミュニケーションの力も付き積極的に話せるようになりました。また、日中は仕事をしている二人にとって、一般の方とかかわる貴重な機会にもなっています。

道場の代表である濱名智男さんは、小さい頃からずっと自宅に道場を開くことが夢でした。障がいのある子もない子関係なく、一緒に柔道に向き合える場所にしたかったとのこと。めざすところは「和合の和」であり、一緒に身体運動をしながらお互いに伸びていくところにあるといいます。

教えるときは「姿勢を正す」「相手に合わせる」ということを一番大切に、相手と気持ちを合わせて、相手の動きに合わせていくことで、一歩先を読んで動くことができるようになります。「柔道の本質に合わせていけば安全な柔道ができる」と話されました。



濱名さん

お二人のお母さまにもお話を伺いました。

#### Q. 昨年の国際大会での勝利までどんな道のりだった？

A. 勝ち負けではなく、普段の練習の延長に大会があり、そこが一般の競技とは違うと思います。

#### Q. 濱名先生はどんな先生？

A. 安全に柔道ができるというところを大事にしているのが厳しいが、ユーモアがあり面白い先生です。本人たちは言葉を言われても、分からなかったり忘れてしまうため、先生は同じことを根気強く繰り返し教えてくださいました。そうすることで本人たちは身体で覚えていくことができていると思います。



みっちり2時間稽古した後もかわらず、嫌な顔ひとつせずインタビューに答えてくれた小林さんと高部さん。次の目標を尋ねると、「オーストラリアで金メダル！」と目を輝かせながら答えてくれました。



## 12月3日～12月9日は障害者週間です

今月号では、スポーツを通じて大磯町で障がいとともに向き合い、ともに歩み続けている方にお話を伺いました。忙しく過ぎていく日々の中、いまだけ少し歩を止めて、あなたもわたしも障がいのあるなし関係なく、地域で暮らす人々のことをともに考えてみませんか？

☎ 福祉課 ☎ (73) 4530

### パラサーフィン

2年前にも広報で紹介された、町内在住の勝倉直道さん。

31歳の時に交通事故によって重度の火傷を負い、皮膚拘縮両下肢機能障害となりました。51歳の時にパラサーフィンと出会い、現在はパラサーファーとして世界で活躍しています。

昨年の12月米国カリフォルニア州ピズモビーチで開催されたISAパラサーフィン世界戦「ISA World Para Surfing Championship」に日本代表として参戦し、見事4位入賞を果たしました。

海外での交流を通し感じたことは、日本はまだ障がい者に対して後ろ向きな見方があるとのこと。海外では、車いすの人やその家族に対しても「当たり前」に声をかけます。しかし、日本人は、障がい者に声をかけるのをためらう傾向があります。こういった「当

たり前」のところ障がいに対する理解や気持ちの部分の受け入れに大きな差があるといいます。

「日本の社会も一人ひとり違う個性や障がいを「当たり前」に受け入れる社会になるといいなと思う。」と話されました。

今後の活動については、2023年11月の「ISA World Para Surfing Championship」に日本代表として参戦し、2028年ロサンゼルスパラリンピックの日本代表をめざしていくとのことでした。



### 大磯パラスポーツを楽しむ会

「近くで障がい者スポーツをやりたいけれど、町内にはない」。車いすで生活していた初代会長のそんな思いから発足した大磯パラスポーツを楽しむ会。現会長の安藤氏と副会長の賀来氏にお話を伺いました。

#### 設立からこれまでの経緯

本格的に会を立ち上げたのは2017年。メンバーの一人が「初級障がい者スポーツ指導員」の資格を取得。広報での周知とともに各メディアでも取り上げられたこともあり、参加者も徐々に増えていきました。以来、毎月1回活動しています。

#### 現在の活動状況

参加者は町内外から障がいのある人やその家族、また、パラスポーツに興味を持つ人など10人ほど。フライングディスク、ボッチャ、コーンホール、ユニカール、手のひらバレー、モルック、全身ベースボール等を行っています。

数年前からは「大磯チャレンジフェスタ」にも参加。また、先日初めて開催された「第1回かたつむりの家フェスティバル」にも参加し、パラスポーツを多くの

来場者に体験していただいています。

この会では、スポーツのルールにとらわれずいろいろな種目を楽しむことをモットーとしています。障がいの有無や程度にかかわらず、いわゆる“大磯ルール”としてその場でルール作りを皆さんですることもあります。

自身もスポーツ少年で、スポーツの楽しさをたくさん経験してきたという安藤会長は、過去に下肢に障がいのある方のプールに付き添った際、水中では歩けることに驚いたといいます。一緒にプールに2年ほど通うと、彼は泳げるまでになったといいます。

「本人や家族が望んでも、これまでスポーツの機会がなかった。ルールや方法にとらわれず、工夫すればどんな人でも必ずスポーツを楽しめる。大磯町にこんな場所があることを多くの人に知って欲しい」と話されました。

活動は毎月第2土曜日11時～13時、岩田孝八記念室内競技場。参加無料で事前申込みが必要。

☎・☎090(3908)4521 安藤

<https://www.facebook.com/parasports.oiso/>

